

福島民友

THE FUKUSHIMA MINYU

2013年（平成25年）2月15日付

足こぎ車いすを開発

南相馬 タカワ精密が市に贈る

南相馬市原町区の製造業・タカワ精密（渡辺隆光社長）は、半身不随の人などのリハビリに効果がある足こぎ車いすを開発し、14日、市に製品1台（45万円相当）を寄贈した。

足こぎ車いすは歩行困難な人でも、どちらかの足が動けば両足でペダルをこげる可能性があり、無理のない筋肉トレーニングができるという。元々は東北大が構想し仙台市のベンチャー

企業が実用化を図ったが、小回りや軽量化に課題が残っていた。

タカワ精密と福島大、同市の日本オートマチックマシンなどが南相馬市の補助金を活用して改良に乗り出した。自動車に使われる「デフ」という仕組みを応用し、小さな力でも滑らかに旋回、移動ができる足こぎ車いすを開発した。

この日はタカワ精密の渡辺社長、渡辺光貴取締役、

桜井市長に足こぎ車いすを届けた（左から）渡辺社長、鈴木係長、渡辺取締役。小野田修一主任理学療法士（右）が同席した



鈴木鉄雄FA設計係長らが補助を受けた感謝の気持ちを示そうと、市役所を訪れ、

桜井勝延市長に足こぎ車いすを届けた。渡辺社長は「現場で使っ

てもらったことで普及につながりたい」と話した。

足こぎ車いすは市立総合病院で活用される。贈呈式に同席した同病院の小野田修一診療部リハビリテーション科主任理学療法士は「神経を活性化するのでまひのある人にも効果がある。歩けるか歩けないかの境にいる人にはリハビリの動機付けにもなる」と期待を寄せていた。